

津波と原発の子どもたち の時間的展望への影響

—東日本大震災後の作文のテキストマイニング—

いとうたけひこ（和光大学）

shimoebi@gmail.com

キーワード：東日本大震災・心的外傷後成長・放射能・
テキストマイニング・時間的展望

第37回生命情報科学会（*ISLIS*）学術大会

2014年3月15日10:55-11:15

東邦大学5号館地下一階 臨床講堂

【問題】被災した子ども・青年の時間的展望

- 子ども・青年の時間的展望（都筑・白井）
過去・現在・未来をどのように関連付けているか

東日本大震災を体験した子どもたちの被害
地震→津波→原発 のパターンによる4つのタイプ

Yes Yes Yes

Yes Yes No

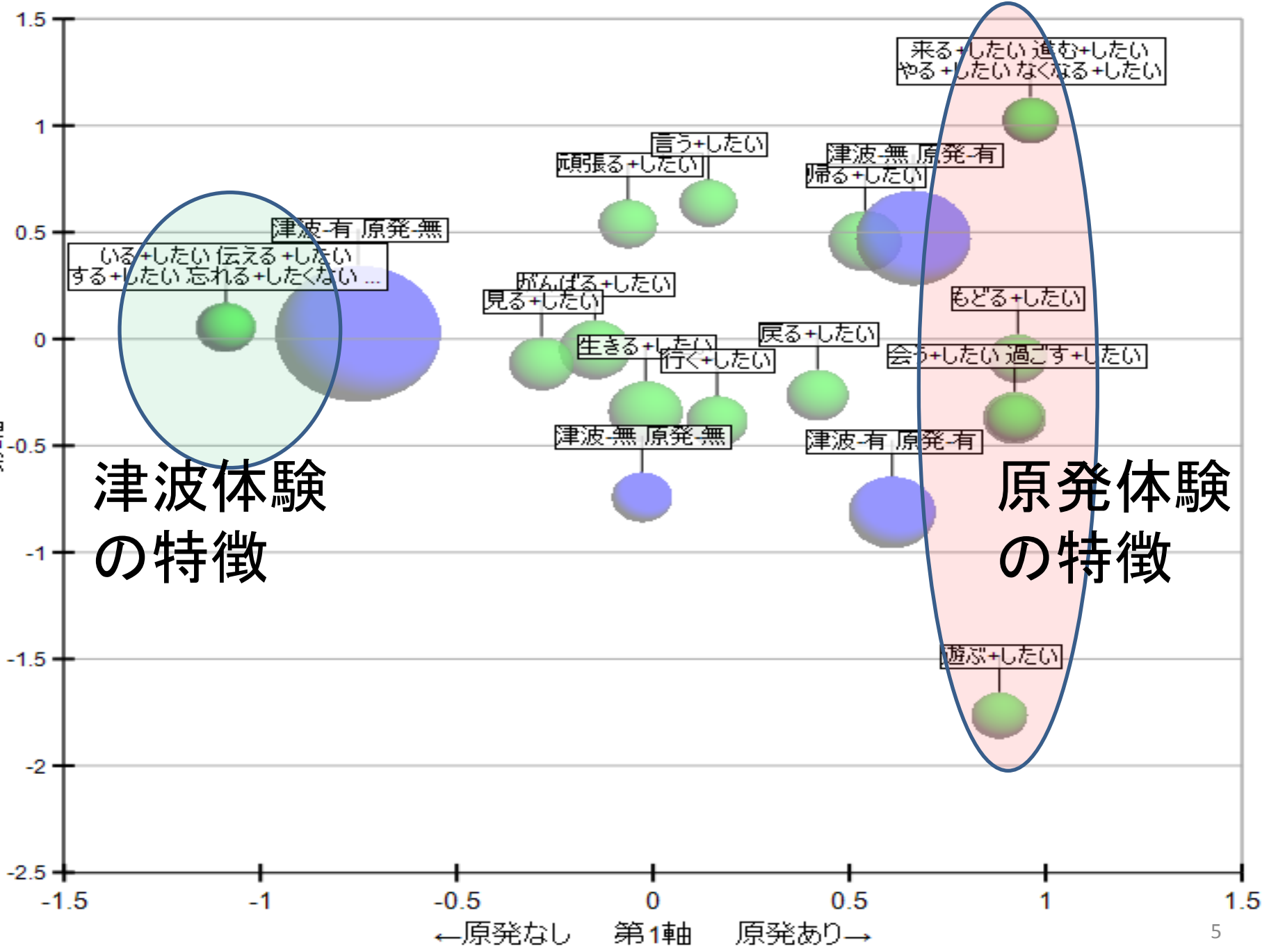
Yes No Yes

Yes No No

【目的】本研究の目的は、東日本大震災を経験した子どもたちの作文から、子どもたちの語りの特徴を明らかにし、津波体験と原発被害体験の違いによりどのような願望の違いが見られるかを明らかにすることである

【方法】分析対象： ○森健(2012)『つなみ 被災地の子どもたちの作文集 完全版』文藝春秋(85編)、
○森健(2011)『「つなみ」の子どもたち 作文に書かれなかった物語』文藝春秋(4編)、
○Create Media(2012)『子どもたちの3.11』学事出版(44編)、
○ふくしま子ども未来プロジェクト(2012)『はやく、家にかえりたい。』合同出版(36編)から選ばれた161編の作文。

手続き： テキスト化し、Text Mining Studio Ver. 4.1(Mathematical System Inc.)により、願望の動詞を抽出した。津波体験の有無と原発被害体験の有無により、対象作文を4群に分類して、対応分析を行った



【結果】

●津波被害が有り、原発被害が無い群（左側）

「この震災を忘れたくない」、「この震災のことを伝えていきたい」ということを述べている。

●津波被害の有無にかかわらず原発被害が有る群（右側）

地元や家に帰りたくない思いや、「もとの生活にもどりたくない」、「早くもとのような町にもどってほしい」思い。原発被害のため避難生活を続ける中、離れ離れになった「友だちに会いたい」、「遊びたい」という思い。

●津波被害も原発被害も経験していない群（中央）

「頑張りたい」、「生きたい」などの表現が特徴的。

【考察】

●震災による津波被害と原発被害により子どもたちの**生活環境が一変**した。

●原発被害により慣れ親しんだ環境を離れ避難生活をしなければならぬ現実や家族や友人と離れ離れになり生活をしなければならぬ現実など、**放射能被害がもたらした影響は子どもたちにとって強いストレス要因**。

●津波被害の子どもたちは被害を**過去のもの**と受け止めているが、原発被害体験の子どもたちにとって作文時点での被害は**現在進行形**だった。

心的外傷後成長 (PTG) の定義 (Posttraumatic growth)

- 外傷的な体験, すなわち非常に困難な人生上の危機(災害や事故, 病を患うこと, 大切な人や家族の死など, 人生を揺るがすようなさまざまにつらい出来事), 及びそれに引き続く苦しみの中から,
- 心理的な成長が体験されることを示しており,
- 結果のみならずプロセス全体を指す

PTGの5因子

(Tedeschi & Calhoun, 1996)

- 第1因子「他者との関係」(Relating to Others)
- 第2因子「新たな可能性」(New Possibilities)
- 第3因子「人間としての強さ」(Personal Strength)
- 第4因子「精神的(スピリチュアルな)変容」(Spiritual Change)
- 第5因子「人生に対する感謝」(Appreciation of Life)



第1因子「他者との関係」

(1)「家族との関係」

- 震災では多くの人々が家族や友人を喪った。
- 震災で祖父を喪った男子高校生は「今回の震災で、家族のきずなの深さを実感できました。」と記述している。
- ある中学生は、避難先で配給が来ない中、自分は食べるのを我慢し妊娠中の母や兄弟に食料を優先させた際の状況を次のように述べている。「私はなんとか母や兄弟にお腹いっぱい食べてもらいたく、自分は食べるのをやめました。」(中学生女子)。

第1因子「他者との関係」

(2)「周囲の他者との関係」

● 愛他的行動

- ある中学生は、避難先で生活用水を集める際の状況を次の様に述べている。「水不足で。飲み水は自衛隊の給水車が来ましたが、それ以外の生活水は、雨水などを溜めてみんなで協力して、運びました。」(中学生男子)。
- 「みんな地震がくるたびにもうふを自分にかぶせたり人にかぶせてました。」(小学校高学年男子)など、見ず知らずの者同士が自然と助け合う愛他的行動の様子が記述されていた。

第2因子「新たな可能性」

(1)「震災経験から新たな目標が生まれる」

- ある小学生は震災で父親を喪った。野球選手を経て、野球監督となった父を慕っていたこの少年は、作文の最後に「ぼくは、おとうさんにまけないせんしゅになりたいです。」(小学校低学年男子)
- ある小学生は人々が助け合う様子を見て「たくさん勉強をして看護師になりたい。人を助ける、人の役立つ仕事がしたいと思いました。」(小学校高学年女子)

第2因子「新たな可能性」

(2)「支援への感謝と復興への思いから生まれる希望」

- ボランティアなどの支援に感謝し「もしも僕達が檜葉町に帰れるとなったなら見守ってくれたみんなに恩返しをしたいと思います。そんな日が来ると僕は信じて、今を生きたいです。」(中学生男子)
- 「家がなくなり、どこに行こうか、とほうにくれる今、みんなで『笑顔』を忘れず、石巻の復興に向けて、がんばって、前より、良いくらしを作っていきたいです。」(小学校高学年女子)
- 新たな目標が生まれ、また、ボランティア支援への感謝や復興への思いから新たな希望が生まれていることが明らかになった。

第3因子「人間としての強さ」

(1)「過酷な状況下でも未来へと目を向ける強さ」

- 「私は、この出来事を一生忘れることはないでしょう。だけど、いつまでも引きずっていても前には進めません。過去は変えられないけど未来は変えられます。先の見えない未来だけど、私は一步一步、強く歩んでいきたいです。」(中学生女子)
- 「地震発生から日数が経つに連れて、自分の住んでいた町がどんな状況なのかわかるたびに何とも言えない心境になりますが、今はただひたすら前を向いて進んでいくだけです。NEVER GIVE UP！」(高校生女子)。

第3因子「人間としての強さ」

(2)「犠牲になった人々のためにも生きるという決意」

- 「津波に追いかけられながらも生き延びた命、これから何事にも負けず、一生懸命生きていきたいと思います。」(高校生男子)
- 「ぼくは東日本大震災に被災して、悲しい事がたくさんありましたが、貴重な体験をしたと思っています。ぼくはこの事を一生忘れてはいけないと思うし、この震災と大津波で亡くなった方の分も生きなければと思います。」(小学校高学年男子)
- 「この命は、今まで以上に大切にし、亡くなった人の分まで一生懸命に生きようと思います。」(中学生女子)

第4因子「スピリチュアルな変容」

(1)「自然の美しさ」

- 「3ヶ所の避難所を回るとき、ふと空を見上げると、今までに見たことの無いぐらい美しい星空がありました。光の無い街を、月や星はしっかり照らしてくれていました。」(高校生男子)
- 「学校に避難していた地域の方たちと津波を避けて山を登り、市役所に一晩泊まりました。その時に見た空は今までにないくらいきれいで、自分や町がどのような状況にあるのかすら忘れてしまいました。」(高校生女子)

第4因子「スピリチュアルな変容」

(2)「命への気づき」

- 「生きてることはすごいきせきです。」(小学校高学年男子)
- 「この震災で本当の『命』の大切さを感じました。」(小学校高学年女子)
- 「命があることに感謝し、今を大事に生きていきたいです。」(高校生女子)
- 「私の命は、今も音をたて、動いています。それがわかると、うれしくて、いつも心の中で思います。『私は今、生きている』ということ。」(中学生女子)。

第5因子「人生に対する感謝」

(1)「今までの日常に対する感謝」

- 「私はこの大震災でふつうの生活がとても幸せだということに気づいた。私は、この体験を何かにかしてあげたいなと思う。」(小学校高学年女子)
- 「今私は、朝昼晩、三食きちんと食べれること、お風呂に入れること、ふとんに寝れることなど『あたりまえの生活』ができることに感謝しています。」(小学校高学年女子)
- 「日々ふつうに暮らせるようになったら、その一日一日を大切にすごしたいと思います。」(中学生女子)。

第5因子「人生に対する感謝」

(2)「自分の人生に対する感謝と他者の存在に対する感謝の関係」

- 「震災の前、大好きな私の家で家族みんなで生活していたこと。お母さんと一緒にごはんを作ったこと。家族みんなで食べたこと。いつでも電気がついて蛇口をひねれば水が出たこと。あたりまえのように思っていたその一つが決してあたりまえなのではなくて、とても大切に幸せで何よりも宝ものだと思うのです。」(小学校高学年女子)
- 「こうして大好きな家族とご飯を食べれることを、寝れることを、すごく幸せに思います。」(中学生女子)
- 「私の家族は、全員無事でした。いつもだったらあたりまえのことでも、今はそのことがすごい奇跡だと思っています。」(中学生女子)。

心的外傷後成長 (PTG)

- 原発被害のある子どもにとってはトラウマ的な状況は現在進行形である。
- しかし、そのためにPTGが現れにくいわけではない。
- とはいえ、現実の問題と格闘していることも一方の事実としてある。